



①



②



③

作品概要

作品名 岐阜市金公園再整備
 所在地 岐阜県岐阜市金町5丁目地内
 発注 岐阜市 都市建設部 公園整備課
 設計 中央コンサルタンツ株式会社
 施工 株式会社松英組、有限会社村瀬造園、丸成建設株式会社、昭和造園土木株式会社、朝崎建設株式会社、瀬古水道株式会社、永井建設株式会社、山一電気株式会社、山本建設株式会社
 監理 岐阜市 都市建設部 公園整備課
 設計期間 2020年8月～2021年3月
 施工期間 2021年7月～2023年3月
 規模 約1.0ha
 主要施設 芝生広場、多目的舗装広場、遊戯広場、ステージ、デッキ、トイレ、休憩施設、キッチンスタジオ

作品評

本作品は、岐阜市駅前に広がる柳瀬商店街に隣接する近隣公園のリニューアル設計である。市民の憩いとやすらぎ、うるおいを創出する拠点として、また、中心市街地の回遊性向上と賑わい創出を図る拠点としての役割が求められた。設計と同時に進められた同公園の運営検討業務と連携し、公園の未来を考える会での市民との意見交換や、公園活用に係る社会実験などを踏まえた検討、加えて、地元商店街やまちづくり団体、学識経験者などのワークショップを経て、「つかう」視点での整備方針やプラン検討が行われた。この結果、市内屈指の歩行者交通量がある隣接道路側には、公園と道路・まちをつなげる、道路機能を補完する園路と広場が続き、開放的で寄り付きたくなる様々な仕掛けが展開されている。一方、既存樹や水系施設、様々な公共施設との接点の活用など、既存資源の活用にも工夫されており、リニューアルという課題にも十分な対応が図られた。「つかう」視点からの検討、という目標設定が、十分な成果として形に表されており、まちの活力再生という課題解決に寄与した好事例として、優秀賞となった。



④



⑥



⑦



⑤



⑧

①芝生広場 ②小道と小高い空間 ③芝生広場の斜面すべり ④噴水とウッドデッキ ⑤動線上の滞留空間とキッチンカーの出店
 ⑥ひな壇状のベンチ ⑦行灯のように周囲を照らすトイレ ⑧柳ヶ瀬商店街のイベントとの連携時の風景

岐阜市金公園再整備

中央コンサルタンツ株式会社

浅野誠一・田中順己・木村光・三浦利夫・朝日翔太・楠本葉月

金公園は、岐阜市の中心市街地に位置する約1.0haの近隣公園である。飲食店で賑わう玉宮通りと接し、北側には市の商業の中心として古くから賑わう柳ヶ瀬商店街が隣接するなど、日常的に多くの人々が往来する立地にある。隣接する柳ヶ瀬商店街では、商店街や地域の方々为主体となり、活性化に向けたイベントやリノベーションまちづくりが進められているほか、

本公園のリニューアルとともに完成した再開発ビル「柳ヶ瀬グラッスル35」のオープン等、官民によるまちづくりが活発化している状況であった。

本公園の検討にあたっては、中心市街地のグリーンインフラとして重要な役割を担うこと、周辺まちづくりの機運の高まりを踏まえ、検討段階から周辺と連携した、地域に合った公園づくりが必要と考えた。そこで、柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社、柳ヶ瀬商店街、地元大学の学識経験者とともに、「つかう」視点でのプランづくりに向けた意見交換を重ね、市民の日常利用に向けた空間、イベントを含めた周辺まちづくりとの連携を意識した公園づくりを目指した。

通りからシームレスにつながるデザイン

公園に隣接する玉宮通りは、市内屈指の歩行者通行量がある一方で、公園に立ち寄りの方が少ない状況であった。日常的に利用したくなる空間整備に向け、通りとシームレスにつながる動線計画、芝生広場周囲の動線沿いに舗装広場と休憩施設による小規模な滞留空間を連続して設けることで、通りから寄り付き、留まりたくなる空間デザインとした。

滞留施設のデザイン

日常的に市民が憩える空間の整備に向け、芝生広場を中心にひな壇状の小高い空間やベンチ、水景施設に併設したデッキや大小様々な縁台等、園内各所に様々な形状の滞留施設を設け、

利用目的や利用人数に合わせて好みの場所を選択できるデザインとした。

周辺まちづくりとの連携

様々なイベント活動を想定した舗装広場や滞留施設の配置、イベント時に活用可能なキッチンスタジオやコンセント盤等、柳ヶ瀬商店街のマーケットイベントの拡張やマルシェイベントでの利用などを見据えた計画とし、周辺との連携が可能な計画とした。

地元関係者との協働により検討した本公園は、市民の日常的な憩いの場としての利用や、柳ヶ瀬商店街と連携した定期的なイベント開催等、様々な方々に親しまれている。